

**【成果情報名】 バレイショ「さんじゅう丸」の種いも切断面乾燥および植付け後の灌水の併用による秋作普通栽培における出芽安定**

**【要約】** 「さんじゅう丸」の秋作普通栽培では、種いもの切断面にケイ酸資材を粉衣した上で、植付け後に灌水することにより、欠株および種いも腐敗が減少し、収量が向上する。

**【キーワード】** バレイショ、さんじゅう丸、出芽安定、種いも切断面乾燥、灌水

**【担当】** 長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・馬铃薯研究室

**【連絡先】** (直通)0957-36-0043

**【区分】** いも類

**【分類】** 指導

**【作成年度】** 2018 年度

---

**【背景・ねらい】**

バレイショ「さんじゅう丸」は、秋作普通栽培において欠株が発生しやすいことがある。その原因の一つは植付け後の種いも腐敗であり、その対策として、種いもの切断後にケイ酸資材を用いて切断面を乾燥処理することや、植付け後に灌水することにより、欠株および種いもの腐敗を軽減できることを報告した（ながさき普及技術情報第 35 号 23、24）。そこで、さらに高い効果を得るために、乾燥処理および灌水処理を併用することによる欠株および種いもの腐敗の軽減効果の検討を行った。また、「さんじゅう丸」の種いもを切断せずに植付けた場合には、灌水を行うことで増収効果が認められている（ながさき普及技術情報第 36 号 26）が、種いもを切断して植付けた場合の収量性については未検討であったため、併せて検討を行った。

**【成果の内容・特徴】**

1. 種いもの切断面にケイ酸資材を粉衣した上で、植付け後に灌水することにより、欠株および種いもの腐敗が減少する（図 1）。
2. 種いもの切断面にケイ酸資材を粉衣、または植付け後に灌水することにより上いも数および収量は増加する傾向にあり、特に、種いもの切断面にケイ酸資材を粉衣した上で、植付け後に灌水することにより、収量が有意に増加する（図 1）。

**【成果の活用面・留意点】**

1. 気象庁によると、無降水期間は増えており、本試験を行った 2 年間とも秋作期間内に 1 週間以上ほとんど降水がない期間があったため、灌水の効果は高くなると見込まれる（図 2、2017 年のみデータ掲載）。
2. 「さんじゅう丸」は青枯病の抵抗性が中程度であるため、青枯病が発生する圃場で早植えを行うことは避ける。
3. 灌水を行う場合は、畦上が湿めるようにする（写真 1）。
4. 切断面の乾燥処理は、消毒した包丁で種いもを切断したあと直ちに、ケイ酸資材を種いも切断面に丁寧に粉衣し、付着ムラがないようにする。

## [具体的データ]

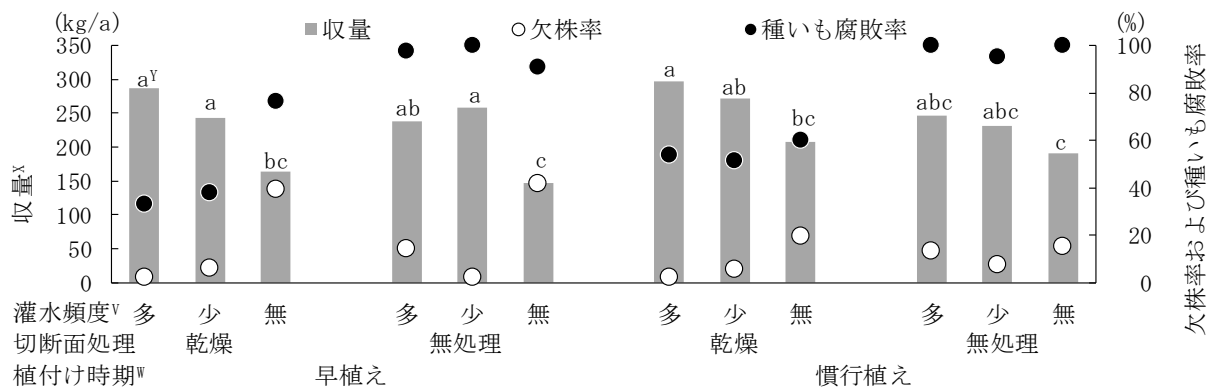


図1 植付け時期、切断面処理および灌水頻度の違いによる種いもの腐敗、生育および収量性<sup>Z</sup>  
<sup>Z</sup>2016~2017年の平均値

<sup>Y</sup>植付け時期毎に同列異符号間には5%水準で有意差あり (Tukey法)

<sup>X</sup>収量 (kg/a) = 株あたり上いも重 (g/株) × 植付け株数 (666株/a) × 出芽率/1000

<sup>W</sup>早植え (8月下旬)、慣行植え (9月上旬)

<sup>V</sup>多灌水區、少灌水區では、出芽期までは土壌水分が各々pF1.7、2.0を上回った日に灌水し、その後はいずれも2.0を上回った日とし、無灌水區では灌水しない

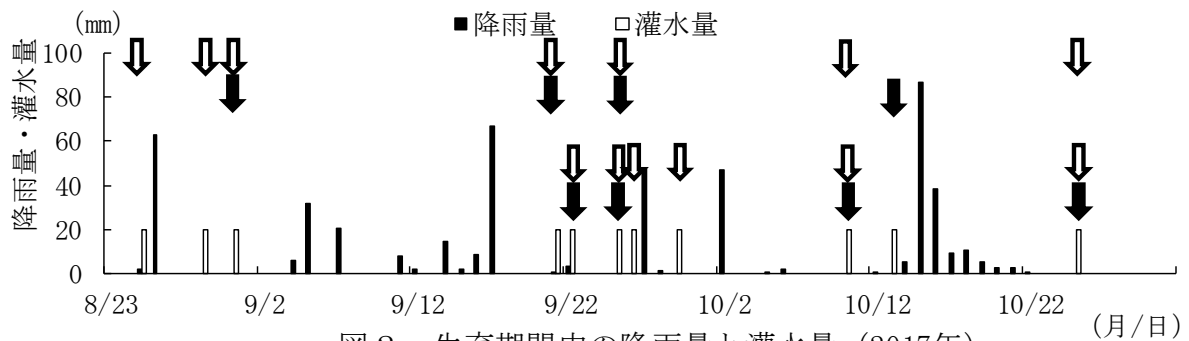


図2 生育期間中の降雨量と灌水量 (2017年)

<sup>Z</sup>多灌水區は図中矢印 (⇩) の日に、少灌水區は図中矢印 (⇩) の日に灌水を実施  
 上段が早植え、下段が慣行植えの灌水日を示す

### 【灌水方法および生育調査概要】

試験年次 : 2016~2017年 試験圃場 : 長崎県雲仙市

作型 : 秋作普通栽培 供試品種 : さんじゅう丸

植付け時期 : 慣行 (9月上旬)、早植え (8月下旬)

収穫時期 : 11月下旬 施肥量 : N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=1.4:1.12:0.84 (kg/a)

栽植密度 : 666株/a (畦間60cm×株間25cm)

※種いもの腐敗調査用は1333株/a (畦間60cm×株間12.5cm)

乾燥処理 : 種いもの切断直後にケイ酸資材 (株サングリーンオリエント製、じゃがいもシリカ) を切断面に均一に粉衣

灌水方法 : エバフロー (三菱樹脂アグリドーム製) を用いて行い、灌水量は1回あたり2t/a

調査 : 生育期間中に萌芽期 (萌芽した株が調査株の半数を超えた日) や欠株率、種いもの腐敗率 (一部でも腐敗した塊茎数/全調査塊茎数) × 100 等を調査し、収穫後に収量性を調査



写真1 灌水方法

## 【その他】

研究課題名 : 「さんじゅう丸」の品種特性を活かす栽培技術の開発

予算区分 : 経常研究 (県単)

研究期間 : 2013~17年度

研究担当者 : 坂本悠、龍美沙紀、松尾祐輝、茶谷正孝